



さくら便り

35号

令和4年10月

9月1日「さくらの会」は境川堤のごみ拾いをしました。ごみの量はいつもと変わりませんでした。このごみ拾いに毎回手伝って頂いている方がお見えになります。桜の木の周りの草を取り除いて頂いております。会として大変感謝しております。今月はシルバーの会へ頼み、桜の枯れ木5本を伐採する予定です。普通1本の木を伐採（処理を含む）に7~8万円係るようです。今回はシルバーの会に4万円で請け負ってもらいました。処理等は会で行います。又、北島に植えた苗木切られてしまいました。根が付いていたのでしょうか、わけ木が芽を出していました。今度は切られない様、目印を付けておきます。11月アダプトで草刈りをして頂ける方をお願いですが、目印のあるものは切らないでください。ご苦勞お掛けしますが宜しくお願い致します。

（散歩の友） 今回は承久の変と近隣の関係について書かせて戴きます。承久の変は後鳥羽上皇を中心の朝廷と鎌倉幕府の権力争いで起きた戦いです。この時期、源頼朝を武家の棟梁として東国武士を中心に樹立された鎌倉幕府は、東国を中心に諸国に守護・地頭を設置して警察権を掌握していました。一方西国への支配は充分でなく、依然として朝廷の力は強く、幕府と朝廷の二元政治の状態にありました。このため覇権争いが起きました。鎌倉幕府は承久の変で勝利し、全国に支配を行き届かせました。承久の変の戦いはまず木曾川を挟んでの戦いがありました。可児・美濃加茂・各務原・岐南等で両軍が対峙しました。近隣では大豆戸（前渡東町）と食（印食）です。まずは大豆戸です。大豆戸は承久記には大豆戸、吾妻鏡には摩免戸と記されています。今の各務原市前渡東町で前渡お不動さん近くでの戦いです。前渡のお不動さん、正式名は前渡不動尊仏眼寺で不動明王を祀っています。寺の名前がある様に眼病にご利益のある寺です。この辺りは木曾川の中でも水量の多い夏場でも渡り易い場所でした。ここに幕府軍の総大将北条泰時・三浦義村と朝廷軍藤原秀康・三浦胤吉が対峙し争いがありました。お不動さんの山腹には戦った兵士の供養塔があります。次に食渡（じきのわたし）の戦いですがはっきりした場所は分かりません。岐南町の生島神社の縁起には「境内は高台、かつては大きな川が前にあった、後ろにも大きな川が流れていて、尾張国と美濃国の境になっていた」とあります。どうも木曾川の本流が南に流れていて、北は境川が流れていたものと思われます。ここも渡り易かったのでしょうか。いま、NHKで放送されています「鎌倉殿の13人」でこの戦いは放送されるかどうか分かりませんが、こんな身近なところにも関係があると思うと興味深くなります。

桜を愛する会